

2022年5月19日 14:00~15:30 オンライン開催 第18回医療介護関係者の研修～地域で生きるために～ 「慢性腎臓病と透析」

いでクリニック院長 井出 孝夫氏を講師としてお迎えし、「慢性腎臓病とはどんな状態なのか、末期腎不全の治療、在宅療養の注意点、緩和ケア等を学び、医療介護連携について考える事を目的とした研修会を開催しました。沢山の方に関心を持って頂き、73名の方がご参加下さり、わかりやすい講演内容だったと好評でした。

座長：神戸市西区医師会 顧問 石原内科・リハビリテーション科 院長 石原 健造 氏
講師：神戸市西区医師会 理事 いでクリニック 院長 井出 孝夫 氏

主な内容

1. 正常な腎臓の働き…①血液を浄化し毒素を取る ②水分電解質の調整 ③内分泌作用(エリスロポエチン産生分泌で赤血球を作る、レニン産生分泌で血圧の調整、ビタミンD活性化によりカルシウム吸収を助け骨を強くする)
2. CKD(慢性腎臓病)とは…糸球体のフィルターが壊れ蛋白が漏れ出る(蛋白尿)状態
原因：生活習慣病(高血糖・高血圧・脂質異常の放置)由来が多い。



講師：井出 孝夫氏

治療：疾患別治療＋生活習慣病対策が治療となる一定程度のCKDならば治療は可能
予後：CKDが続くと末期腎不全(人工透析)や、脳卒中・心筋梗塞になりやすい。

3. 末期腎不全の治療について…透析療法と腎移植 最近は透析非導入もある。
透析患者の原疾患：糖尿病性腎症40%、腎硬化症15%、糸球体腎炎15%。
近年腎硬化症が増加。

4. 透析患者によくみられる症状・合併症

- ・便秘(水分やK制限のため水分や野菜果物の摂取が減り便秘になりやすい)⇒下剤投与
- ・かゆみ(CKDになると自律神経障害で汗が出なくなり皮膚乾燥してかゆみが出現)⇒保湿剤
- ・免疫力低下 ・血管の石灰化がおこりやすい⇒透析でP(リン)を下げる



座長：石原 健造氏

質疑応答

1. 透析患者に対し、厳格なカリウム制限はしない考えがあると聞いた。先生のお考えは？(薬剤師)
⇒ロケルマ(高カリウム血症改善剤)という薬の出現で考え方が変わったが、まだ厳格なK制限が不要と切り切れない過渡期と考える。
2. 透析を受けない選択をした場合の緩和ケアについて先生のお考えをお聞きしたい(薬剤師)
⇒透析学会の結論は出ていない。透析を選択しなければ肺に水が溜まり窒息死する。その状態を目前で見ていられるかという問題がある。透析をしない選択をした家族が家でみているのが辛く、透析をするという選択をした結果、高齢の方でも3～5年余生を過ごせ、透析をして良かったという事例が何例かあった。みていられるかという事を含めて考えないと結論は出せないのではないかと考えている。

参加者の感想

- ・とてもわかりやすい講演で、慢性腎臓病(CKD)や透析について理解が深まった(ケアマジャー)
- ・CKDになると心筋梗塞や心不全に3倍なりやすく生活習慣病予防への取り組みも大切とわかった。
- ・透析非導入時の予後について、先生のお考えを知る事ができ参考になった(ケアマネジャー)
- ・透析しかない状況の方の話聞いてもピンとこなかったが、今後少しは寄り添えそう(薬剤師)